

## 仙台市総合計画審議会 第2回まちと活力部会議事録

日 時	令和元年12月3日(火) 18:00~20:00
会 場	仙台市役所2階 第三委員会室
出席委員	飯島淳子委員、姥浦道生委員、遠藤耕太委員、菊地崇良委員、今野薫委員、 榊原進委員、竹川隆司委員、館田あゆみ委員、西澤啓文委員、浜知美委員、 舟引敏明委員、渡辺敬信委員、渡邊浩文委員 [13名]
欠席委員	今里織委員、庄子真岐委員 [2名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、 松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 3 閉会
配付資料	1-1 全市民アンケート報告書 1-2 市民まちづくりフォーラム ～みんなのせんだい未来づくり2019～報告書 1-3 東北における仙台的あり方と地域づくりシンポジウム報告書 1-4 区民参画イベントの実施概要 2-1 仙台市基本計画検討資料 概要 2-2 仙台市基本計画検討資料(修正版) 参考資料 仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書 チャレンジシティ仙台 委員提出資料 世界に誇れる新しい杜の都 “The Greenest City” Sendaiをつくる

### 1 開会

#### ○郷湖政策企画部長

皆さま、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、これより部会を始めさせていただきます。

それでは、部会長よろしく願いいたします。

#### ○渡邊浩文部会長

皆さま、おばんでございます。第2回の「まちと活力部会」を開会いたします。いつものことですが、議事に入る前に、事務局から定足数を確認、報告をお願いします。

#### ○郷湖政策企画部長

本日は、現時点で 13 名の委員の方にご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告させていただきます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。承知いたしました。会議の公開・非公開の取り扱いですけれども、前回と同様に公開としたいと思いますが、皆さまよろしいでしょうか。

(了承)

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは、公開といたします。

続いて、本日の議事録署名委員の指名ですが、前は遠藤耕太委員にお願いいたしましたので、今回は菊地委員にお願いいたします。

(了承)

それでは、議事に入ります前に、資料の確認を事務局にお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

お手元に、座席表、次第、資料一覧、資料 1-1～1-4、資料 2-1、資料 2-2 を置かせていただいております。それから、机の下の棚に、前回までの主要な資料を綴じた青いファイルをいつも通り置かせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

それから、参考資料といたしまして、仙台商工会議所さんにて取りまとめられました「仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書」という冊子を机の上に置かせていただいております。

10月30日に、仙台商工会議所の仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会から、本市あてに提言を受けたものでございます。資料の不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

○渡邊浩文部会長

それでは、仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会からご提言いただいております提言書について、今野薫委員にご説明をお願いしますでしょうか。

○今野薫委員

貴重なお時間いただきましてありがとうございます。なるべく手短かにコンセプトだけご説明申し上げたいと思います。

表題にございますように、この提言につきましては、今まさにお進めになられていらっしゃる総合計画、それと都市計画マスタープラン、これに対して経済界としての意見を是非反映いただきたいという趣旨から、今年の 8 月にこの委員会を設置して検討を始めたもの

でございます。1年ちょっとかかっているということでございます。表紙をおめくりいただきますと、私どもの会頭が顔写真付きで出ております。今申し上げましたような趣旨ではございますが、実は裏には、やはり復興期間8年8カ月という間に、他都市との競争に少し遅れが出ているのではないかと。そういう危惧があります。そしてまた、名古屋だ、福岡だというところでさまざまなまちづくりが盛んに進められている。そこに対して何とか追いついていかなければならないという危機感も、裏のほうに大きくあるということでもあります。

今回、商工会議所としては初めて、都心という限定の計画をつくらせていただきました。これまで都市計画に対する意見という、だいたい網羅的に出させていただいたのですが、今回あえて、そういう危機感を持って、その都心部の方に絞らせていただいたということでもあります。

おめくりいただいて4ページから10ページ。課題と危機感は一言では今申し上げましたようなことでありますが、そちらをまとめさせていただいております。5ページには市街地更新の遅れがあると。それと人の流れが駅前に一極集中してしまっている。また6ページの中段です。人材が流出をしまっている。さらにめくっていただきまして7ページ、上のほうには復興特需による経済のリバウンドがあるのではないかと。8ページでは東北大学などの知が集積をしている場所であるにもかかわらず、それがなかなかビジネスに結び付いていないのではないかと。小売業を取り巻く環境としましては、ネットショッピングの隆盛ですとか、後は巨大ショッピングセンターが周辺部の方に位置付けられてしまっているということ。さらにめくっていただきますと9ページ、観光文化の課題ということでもあります。中段に発信力、それから10ページでインバウンド。これについては戦略が必要であるということ課題として掲げさせていただいております。

12ページからが具体の提言というものでございます。お時間の関係もございまして、14、15ページ、見開きのA3綴じ込みがございまして、ここだけちょっとご説明を申し上げたいと思います。詳細はお時間のある時にご覧いただければと思います。

これらの課題に対しまして、「チャレンジシティ」ということで5つの指針を立てさせていただきまして、左側の文章とダイアグラム、オリンピックシンボルを縦にしたような感じですが、こういったもので構成をさせていただいております。土台と文章の2ブロック目の1番上でしょうか。土台となるのは守りでなく攻めの姿勢ではないかと。そういうことから「チャレンジシティ」と命名をさせていただきました。○印を5つ並べてございます。真ん中に「回遊都市」というようなことで入れています。人を集めまして回遊をさせていただいて、それが賑わい、それからビジネスの創出といったものにつなげるという意味から中央に置かせていただいております。

2番目といたしまして、その下でございまして。「研究開発都市」、東北大学それから次世代放射光の稼働など、これからこういう研究開発に関連する企業さんの誘致・進出なども期待できるのではないかと。これをチャンスとして生かさない手はないということでございます。

それと3番目、その右側でございまして。商都ということでは先ほど申し上げましたような課題があるわけではございますが、まちに来てもらうだけではなく、そこで過ごしてもらわ

なければならない。そのためにまちとしてのコンセプトですとか、通りとしての特徴、こういったものを出すためのエリアマネジメント的な考え方が必要ではないでしょうか。そしてその左側でございます。「国際交流都市」、インバウンド、アウトバウンドというようなことはよく言われるわけでございますが、MICEでございますとか発信力。こういったものをターゲットを定めて強化をしていくべきである。また、ビッグデータの活用も進めるべきであるということなどが提言のポイントになります。

最後、1番上のところに「文化創造都市」と位置付けをしてございます。やはり若者にとって魅力ある仙台であらなければならない。そこで暮らし、そして勤め、子育てをしてということが、やはり若者にとって魅力ある都市というのはどういうものなのか。そういうものを是非形づくっていかなければならないという思いでございます。

以上が本当にポイントのポイントだけでございますが、これらの提言なのですが、行政さんに是非やってくださいという投げっぱなしとは私ども考えておりません。我々ができることは一生懸命やります。一生懸命に進めるうえで行政さんとして施策のこういうところ、少しこういうふうにしていただくと非常に進めやすくなりますというところを、少々大きな言い方になってしまいますが、官民協働で取り組んでいくというところの思いを込めさせていただいて、まとめてございます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。なかなか予算の入った充実のレポートでいらっしゃるなと思いました。都心部にフォーカスを当てるといふようなところですか、こちらでの議論ともつながるようなところがあるようにお見受けしました。

今野薫委員からもありましたが、鎌田会頭の裏面ページには姥浦委員がにこやかに素敵な笑顔で載っていますけども、何か一言ありますか。

#### ○姥浦道生委員

今、今野薫委員からお話いただいた通りなのですが、根底にあるのが危機感でございます。通常の計画ですと、良いところがあり悪いところがあり、さあこの社会課題をどう解決していきましょうというレベルなのですが、ここで計画は課題しか書いてございません。計画としてありえない計画なのですが、これはどういう問題意識かという、課題ではなくてこれはもう危機だという商業者の皆さん方のご意見でございまして。それを元にしてつくっているの、こういう計画になっているということでございます。ですから真っ赤になっていますが、それはそういう背景があったということでございます。そういう危機感の下、商業者の皆さんがこれから頑張っていくためにどう連携していくべきなのかということを書いたという提言書でございます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。資料類も非常に充実しているようにお見受けしております、これからの我々の議論でも参考になることが多いのかなと感じたところでございます。ありがとうございます。

## 2 議事

### (1) 市民参画事業について

#### ○渡邊浩文部会長

それでは議事に入りたいと思います。お手元の資料にはあっさりと議事(1)(2)(3)とありますが、中身はいつも通りに濃い内容になろうかと思えます。どうぞよろしく願います。

まず議事の第1番目、(1)市民参画事業についてです。資料をご用意いただいておりますので、事務局より説明をお願いいたします。

#### ○松田政策企画課長

資料1-1から資料1-4をまとめてご説明申し上げます。前回の部会では、7月以降これまで行ってきた市民参画事業について概要をいったんご説明申し上げておりました。7月に行った「せんだい中高生会議」の報告書については、すでに出来上がっておりましたので前回お示しをさせていただいたところですが、本日は、ほかの3つの事業について、報告書がまとまりましたので詳しくご説明したいと思います。

それでは資料1-1「全市民アンケート報告書」の1ページをお開きください。3の調査方法にありますように、こちら市政だより9月号にはがきを挟み込みまして、返信をいただくような形で実施したものでございます。4の調査項目でございまして、全部で3項目あります。未来に向けて力を入れるべき取り組みに関して。ここは自由記載となっております。それから問2について。これは審議経過でまとめた7つの視点に関しまして、現在の達成度と今後の重要度についてお尋ねしたものでございます。5になりますが、有効回答はインターネットでの受け付けも併せまして、7,354通となりました。

次は調査結果についての概要です。3~4ページをお開きください。こちらが力を入れていくべき取り組みについての自由記載について、項目を統計的にまとめたものでございます。7つの視点のうち、オレンジ色の「③仙台で暮らす」と4ページの「④仙台で育つ」に関連する記述がともに2,000件を超えて多い状況でした。小分類は1番右側にある細かい分類になりますが、小分類ごとに見ますと、「子ども、子育て支援」についての記述が592件と最も多いところでございました。次いで「③仙台で暮らす」の中の「公共交通」の505件、そして「④仙台で育つ」の中の「教育・学力」の486件が最も多い状況でございました。ほかには「杜の都・緑・景観」、また「いじめ・不登校対策」に関する記述も多く見られたところでございました。

なお、具体的な自由記載は、抜粋形式ではありますが、資料の11ページからそれぞれ小分類ごとにまとめて掲載させていただいております。同じ、例えば「防災・減災対策」にしても、1つの視点だけではなくてさまざまな視点からご意見がありましたし、仙台市の施策に対しましても、後押しするようなご意見もあれば、それに対しての、もっとこうすれば良いというような助言に値するようなご意見も若干ありました。さまざまなご意見がありましたので、後ほどこちらはご高覧いただきたいと思います。

続いて7ページに戻ります。7ページからは7つの視点に関する現在の達成状況につい

てまとめた部分でございます。下にグラフがありますけれども、赤の部分が「実現できている」との評価があったものでございます。こちらで最も高かった視点は「⑦躍動する仙台を創る」でございます、「実現できていない」の25.3パーセントを上回り、7つの視点の中で唯一「現在の達成度」の評価がプラス・マイナスでプラスとなった部分でございます。逆に「現在の達成度」のマイナス幅が大きかった視点は、「④仙台で育つ」、「②仙台でともに生きる」、そして「⑥仙台で働く」でございます。

8ページは7つの視点の今後の重要度についてまとめた部分でございます。「特に重要である」が最も高かった視点は「④仙台で育つ」の54.1パーセント、次いで「⑥仙台で働く」の45.7パーセントという結果でございます。こちらは後ほどご高覧いただきたいと思っております。

続きまして、資料1-2、資料1-2の別紙になります。こちらは10月に行った「市民まちづくりフォーラム」の報告書でございます、「7つの視点に関連した市政の8テーマをセットしまして、テーマごとに市民の皆さまが話し合いを行ったものでございます。資料1-2の5ページにその8テーマが並べてあります。視点の①から⑦に沿って仙台市で行っている施策1つをテーマに挙げまして、それらについて話し合いを行ったものでございます。

6ページ、7ページをお開きいただきたいと思っております。各テーマごとにご覧の通り、左側の下に、現在の取り組みの評価をいったんいただいたものをまとめております。そして右側のページ、「未来への提案」という形でまとめておりまして、見開き2ページで1つのテーマとしてまとめさせていただいたところでございます。こちらがそれぞれの8つのテーマごとに最後のページまで続くという形になっております。

なお、資料1-2別紙がございますけれども、当日出されましたご意見をより詳細に掲載させていただいております。また16ページ以降になりますけれども、当日各グループが意見をまとめるに当たりまして、使いました模造紙や付箋などに書かれた内容をそのまま掲載させていただいております。各グループとも、非常に前向きに活発にご意見を出していただいた状況なのですけれども、こちらの模造紙では、よりダイレクトに当日の雰囲気がお分かりいただけるかと思っております。参加された方々からは、もっとこのような機会があると良いという非常に前向きなご意見を頂戴したところがございます。こちらも後ほど是非ご高覧いただきたいと思っております。

それから資料1-3が「東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム報告書」になっております。こちらは大都市としての今後の仙台のあり方を考えるシンポジウムでございます、「東北における仙台の役割や地域づくりの視点など、当日の齊藤良太さんからの基調講演と4人のパネラーによるパネルディスカッションの概要をまとめたものでございます。こちらも仙台を大都市としての視点、また、地域という目線での仙台のあり方をさまざまな角度からお話し合いいただいたものですので、ご高覧いただきたいと思っております。

続いて資料1-4になります。こちらは報告ではございませんで、これから行うものの内容になっております。「区民参画イベントの実施概要」とありますが、区別計画の策定に向けまして、昨年度に引き続き今年度も各区ごとに行うものでございます。昨年度は各

区の魅力とか未来の姿がどうならよろしいかというような、話し合いのテーマが大きな括りのものでございましたけれども、今年度は区別計画の策定を区で進めておりますので、施策の方向性など具体的な内容の検討に向けたワークショップを想定しております。開催時期は1月26日の若林区を皮切りに2月16日までそれぞれ行う予定でございます。具体的な進め方については、現在各区の担当者と調整を進めている状況でございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございました。皆さんの中にはファシリテーターですとか、もしくはパネリストとして参加された方々もいらっしやったと思います。まずはこれらさまざまなアンケートですとか、フォーラム、シンポジウム等々ご報告が上がってまいりましたけれども、何かご意見ですとかご質問ありますでしょうか。

○姥浦道生委員

お伺いしたいのですが、全市民アンケートでは「仙台で育つ」が非常に低い、衝撃的な数字のような気がするのですが、特に子育て世代、30～40代の方々の評価が低いのですけれども、これは他都市と比べてもそういうものなのか。仙台市はその中でも低いのか。その辺りを教えていただけますでしょうか。

○渡邊浩文部会長

事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

同様の調査を各都市で実施しているというわけではなく、テーマ設定も仙台市オリジナルのもので、各都市との比較ということは難しいのですけれども、経年で見た時に、仙台市は全市民アンケートだけではなくて、現在の基本計画の進行管理として毎年市民の方を対象に仙台市の取り組みがどうであったかという評価を別途アンケートで行っております。そちらでもやはり、いわゆる子育て関係では、非常に辛口の評価をいただいています。やはりいじめの案件であるとか、そういったところが非常に大きく影響しているのではないかとされています。ちょうどいじめの案件があった頃から、子育てに関しての評価が厳しくなったというようなところもありますので、恐らくそういった部分が大きく響いているのではないかと思います。

○姥浦道生委員

ありがとうございました。よく分かりました。後、少し細かい話なのですが、43ページ、これはある程度絶対的な数値だと思いますので、50なら50までで切って全体で示されたほうが良いのではないかと思います。要はほかのところと、世代の比較が難しくなるので。30代はマイナス50までの目盛ですけど、19歳以下はマイナス30までではないですか。これですと19歳以下の中での相対的な比較はできますけれども、19歳以下と30代の比較ができなくなってしまいます。細かい話ですみません。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。要するに目盛を揃えてはというご意見です。

○松田政策企画課長

はい。ご指摘ありがとうございます。

○渡邊浩文部会長

ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

たしか前回、中間的に報告いただいた際にも全市民アンケートについて7,000を超えるご回答をいただいたということで、これまではなかったのじゃないかというご指摘まであったかと思えます。それだけ貴重な、まさに仙台市民お一人お一人の声がここに詰まっているということになるかと思えますので、皆さまお忙しいかとは存じますが、是非ご一読いただいて今後の議論に役立てていただきたいなと思っておるところです。全市民アンケートに限らず、フォーラムですとか、さまざまな報告が出てきておりますので、なかなか読み込むのが大変かと思えますけども、よろしく願いいたします。

ちなみにこれはもう公開はしているのですか。たとえばWebにPDFを貼り付けるとか。

○松田政策企画課長

審議会の資料はこちらにかかわらず、すべて当日の夜に公開をさせていただいておりますので、こちらそのまま載る形になります。

○渡邊浩文部会長

分かりました。ありがとうございます。この議事の1番の市民参画事業については以上ではありますけど、皆さん、よろしいですか。

では、この場ではここまでということにいたしまして、議事・議論を進めていきたいと思えます。

## (2) 基本計画の検討について

○渡邊浩文部会長

次は、2番の基本計画の検討についてです。こちらも事務局で資料を用意して下さっていますので、説明をお願いします。

○松田政策企画課長

資料2-1と2-2についてご説明をいたします。資料2-1は1枚ペーパーでございます。こちらは検討資料の本体である資料2-2の全体の構成や、流れを見やすくするために、ポイントを1枚にまとめたものでございます。資料2-2につきましてはこの後、ご説明申し上げますが、前回の部会では全体の構成をもっとシンプルにすべきという方向

のご意見を複数いただいたところでもございました。たしかに前回の資料では、「まちづくりの理念」とか「都市個性」、「都市像」、「本市が大切にしたい姿勢」、そして「重点的に取り組む7つの視点」などを複層的に盛り込んだところでして、非常にレイヤーが複数重なっていてよく分かりづらいというところ。また記載の内容も重複がありました。課題というのがあちこちに出てくるとか、いろいろなご意見もあったところでしたので、全体構成を見直したところでもございます。

「まちづくりの理念」としましては「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を掲げまして、その中で本市が持つ都市個性を深めて掛け合わせることをお示ししております。次の「仙台市の都市個性」では、4つの都市個性をつくり上げてきた背景について説明しており、そして下の「目指す都市の姿」では、これら4つの都市個性を深めることによって目指す都市の姿を少し具体的にお示ししているというような流れになっております。そして右側の「重点プロジェクト」では、目指す都市の姿の実現に向けて取り組む6つのプロジェクトをお示しするという形でも、ここには省略しておりますが、そのほかにも「基本的な施策の方向性」という網羅的な部分であるとか、区別計画などが続くのですけれども、ポイントとしてはこのような形でシンプルに構成を組み立てたところでもございます。

続きまして資料2-2「仙台市基本計画検討資料(修正版)」をご覧ください。1ページをお開きください。こちらは「はじめに」の部分でも、計画策定の目的、仙台市が目指す都市の姿とその実現に向けた施策の方向性が書かれているものであるというところでも、その下、仙台市に関わる方々がともに進む方向性を共有していくため、この総合計画を作成しますという目的。そしてこれまでの仙台の歩みであるとか、時代の潮流。そして2ページにいきまして、東北の中の仙台の役割などもこちらに記載したうえでまちづくりの理念として、1番下になりますが、仙台に関わるすべての方々と挑戦を重ねながら、「新たな杜の都」をつくっていくところをお示ししている章でもございます。また、3ページには総合計画の対象者であるとか体系、そして計画期間など、基本的な事項を整理しております。

続いて5ページからは、前回お示したように、目指す都市の姿の部分がこちらに書かれており、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というフレーズと、それから6ページには新たな杜の都の概念図が復活しております。以降、7ページからは4つの都市個性を切り口とした目指す都市の姿をそれぞれ1ページずつ4ページに渡ってお示しをしているというところでもございます。

なお、6ページの先ほどの新たな杜の都の概念図の掲載につきましては、「地域とくらし部会」において、視覚的にもコンセプトが分かりやすいものなので、掲載したほうが良いのではないかとのご意見を頂戴したので、こちらに載せさせていただいているものでもございます。

7ページの都市個性「環境」について若干補足をしたいと思います。前回のこの部会の議論では、こちらの環境を切り口とした都市像につきまして、「世界を牽引する防災環境都市へ」としておりましたが、「牽引」という表現は少し行き過ぎではというご意見も頂戴しましたので、「世界に発信する」という表現に今回改めております。

また、「防災」の観点を仙台の目指す都市像に銘打つことに関しての議論が必要ではな

いかとのご意見も頂戴したところでもございました。この点について補足ですけれども、「防災環境都市」というのは仙台市が震災以降打ち出しているコンセプトでありまして、国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」が2030年までであることや、また、例えばですけれども、企業がリスク分散の観点から首都圏から地方に機能を移すような傾向がみられるなど、防災に優れているという点も1つのアピールポイントになるという見方もあるのではないかとこのところも踏まえまして、防災環境都市を引き続きこちらで打ち出すという資料を作成したところでもございます。ここにつきましては、今後の10年間における防災、そして環境の取り組みも含めまして、より具体的なお意見・ご議論をお願いしたいと思っております。

また、前回資料では、グリーンインフラという観点が落ちておりましたけれども、今回7ページの「環境」の「未来へ」のところにもそちらの観点を盛り込ませていただいたところでもございます。

続いて12ページから6つのプロジェクトの章になります。こちらでSDGsのアイコンをお示しするとともに、次のページからは重点プロジェクトが掲載されていますけれども、それぞれ右上のページに関連する主なアイコンをお示しております。

13ページをお開きいただきたいのですが、こちらは「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」のページでもございますけれども、SDGsに関するご意見も複数の委員からいただいたところでした。総合計画における取り扱いについて引き続き検討、議論をしていくということでございましたけれども、今回右上のところにもアイコンをお示ししております趣旨は、SDGsを共通言語として同じ目的意識を持った方々へ協働に向けたメッセージとしてこのように掲載をしていきたいと考えているところでもございますが、ご意見を頂戴したいと思っております。

このプロジェクトの部分でもございますけれども、前回から付け加えたところとしては、現状のところでもさまざまなデータをお付けしたところでもございます。左側のページですが、まずそれぞれのプロジェクトが目指す目標と、それから現状や課題等を示すデータや取り組みに関連する図などもあるのですが、そういったものを掲載しております。そして右のページにはその目標と現状のギャップを埋めるためのプロジェクトの構成で、1つのプロジェクトにつき見開き2ページでおまとめしております。次のページであれば、「みんなで作る地域未来プロジェクト」ということで、データとしては地域ごとに人口増減が進んでいく、濃淡が出てくるというような図であるとか、未来技術の活用とかそういったものをこちらに載せさせていただいております。

17ページは「笑顔はなまる子どもプロジェクト」。0～4歳人口の推移が右肩に下がっているということで、そういったデータであるとか、次代を担う子どもたちの学びの環境づくりというところでもさまざまな体験が行われておりますので、そういった事例であるとか。それから全市民アンケートの結果や、児童の自己肯定感に関するものなども載せさせていただいております。

19ページが「いきいきライフデザインプロジェクト」というところで、こちらにつきましては仙台市の特徴である、学生が多いというようなデータであるとか、それから昨今若い方の意見を聞こうという流れが少しずつ出てきておまして、中高生会議であるとか、

そういった情報を載せさせていただいております。

次が「TOHOKUチャレンジプロジェクト」というところをごさいます、東北を舞台にした経済の分野の施策というところで次世代放射光であるとか、開業支援そしてまた宿泊者数の推移等々を載せさせていただいております。1番最後には東京圏に対する転入転出の状況ということで、若者が流出しているという現状をお示ししております。

最後が23ページ、24ページの「せんだい都心再構築プロジェクト」というところで、都心における建築物の老朽化であるとか、オフィス供給量の減少であるとか、そういったものをこちらに載せさせていただいております。

25ページからは、前回お示した資料と内容は同様をごさいます、「基本的な施策の方向性」としてプロジェクトに関わる施策以外も含めまして、網羅的にお示しをしている部分でございます。

1番最後が35ページになります。こちらはまだ項目出しのレベルでございます。区別計画がこの後に続きます。そして総合計画の着実な推進としまして、こちらは行政運営の方針ということで都市マネジメント、そして大都市としてのまちづくりの観点をこちらにまとめております。後はこれからの議論になりますが、進行管理の方法もこの後に続くという想定でございます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは意見交換に入りたいと存じます。

前回の部会では、中身うんぬんもそうなのですが、章の構成ですとか流れですとか、全体会での議論に少し引っ張られたかなという感じのご意見が多かったかと思っております。今回は非常にシンプルにまとめてくださって、基本的に良いことで、非常にすっきりした案になっているかと思っております。

今回の部会では、前回は章の構成、Ⅰのはじめにというところと、Ⅱの辺りでしょうか、そこに対する意見が多かったと思うのですが、そこを確認しつつ、できれば特にⅢの重点プロジェクトについて重点的にご議論、時間を割きたいと考えております。新たに修正版を作成いただきましたので、まずは章、パートごとにご意見等々をいただいたうえでⅢの重点プロジェクトまで一通り進め、戻って全体のご意見を聞く時間を設けたいと考えております。

おおよそⅠ、Ⅱ、Ⅲのところまで、今6時40分ですが1時間強をここに割いて、残りのⅣ章以降、特にⅤ章以降は頭出しをただだけの段階だというようなことでありますけれども、そこでも5分から10分議論できればと考えております。皆さんどうぞよろしく願いいたします。

さっそくですが、1ページ目からの「はじめに」について審議を進めたいと思っております。ここも非常にシンプルにまとめ直してくださったと思っておりますが、ご意見のある委員の方は忌憚なくご意見を表明していただければと思っております。いかがでしょうか。

飯島委員、どうぞ。

#### ○飯島淳子委員

分かりやすく書き直して下さったということですが、私自身少し分からなくなっているところをお伺いします。「私たち」という言葉が、前から出てはいたのですけれども、何カ所も出てくるわけなのですが、私たちとは一体誰なのか。まちづくりの理念の最後に「挑戦を重ねつくってまいります」とあります。主語としては、前は「本市では」とあったので仙台市なのかと思うのですけれども、「仙台市に関わるすべての方々とともにつくってまいります」では、何が主語なのかなど、お教えいただければと存じます。

○渡邊浩文部会長

事務局、いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

主語については、まだ整理が必要などころがあるというのが正直なところではあるのですが、総合計画はやはり行政がつくる以上、行政計画という位置付けにはなりますが、仙台のまちづくりは、当然ながら行政だけでできるものではなくて、市民の皆さま、さまざまな主体の方々と一緒にまちづくりを進めていくというところは、もはやこれは大前提かと思っております。

こちらの「はじめに」のところは、総合計画は皆さんと一緒に共有をしていくものですよということを全面的に出したいという意図がありましたので、「私たち」というのは、いわゆる仙台市民も含めたというような書き方になっているところがあります。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。まだ文の表現として精査は重ねなくてはいけないけれども、考え方としてはそういうことだということですね。

○松田政策企画課長

そうです。

○渡邊浩文部会長

分かりました。菊地委員どうぞ。

○菊地崇良委員

私はそこには異論がありましてね。以前から何回も言っているのですが、仙台市民というのは、仙台に住民票を持っている方々があくまでも中心であって、その方々とそれ以外の方々は同列にはなり得ないというのが地方自治の原則だと何回も申し上げます。3ページを見ると、飯島委員がおっしゃっただけけれども、この書き方だと市内に住所を有する方だけでなく、ほかの方々が並列で書かれている。ここに非常に違和感を覚えます。書くのであれば、市内に住民票を有する人を中心に、さらに仙台市に通勤・通学されている方々や市民団体の方々と入ってくるのではないのでしょうか。

それから細かい話をします。地縁団体ということが何をイメージされているのかなと思

って見ていました。地縁団体とは今まで町内会の方々を対象とすることが多かったのかなと思います。となると住民以外の方の項目が並んでいる中に地縁団体が入ることは良いのでしょうか。ご見解をお示しいただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。

○松田政策企画課長

仙台に住民票を有する方、住民自治という考え方が1つあろうかと思います。ここに書いてある内容は、それを決して侵害するというような趣旨で書いているものではなくて、仙台というのは、仙台に住んでいる方はもちろんですけども、広く近隣自治体から通勤・通学で訪れる方々であるとか、観光で訪れる方々とか、非常に交流が多い都市でございますので、そういった方々も仙台のまちづくりについて一役を担っていただいている部分はあるかと思います。そういうことをお示ししたくてここに書いたという趣旨があります。

地縁団体というのは、町内会もこの中に入りますけれども、上がいわゆる市内に住所を有する方というのは個人の話、その下はいわゆる通勤・通学の個人、そして団体、事業者などというような並びで掲載しているものでございまして、町内会は地縁団体の中に入ると考えています。

○渡邊浩文部会長

はい。菊地委員。

○菊地崇良委員

今日のアンケートの収集も、仙台市に住んでいる住民の方々に対してアンケートを取っているわけですね。

○松田政策企画課長

基本はそうです。

○菊地崇良委員

そうでしょう。となるとその方々が主体であって、その方々を中心に、さらにそれを取り巻く、あるいはそこに行き交う方々が入ってくるということだと思います。この書き方では並列であり、今おっしゃったように、住民自治ということを前提としつつも言いながら、この文言だけでいくとそうは見えません、日本語として。ここは再考すべきです。

○渡邊浩文部会長

たぶんこの部分、本来の仙台市に住む市民については1行目でさらっと触れているのか触れてないのか分からない程度だ、というご指摘でいらっしゃいますね。関連する方々については4行も割いていて、そんなに丁寧にする必要があるのか、もしくはボリューム

感なりバランス感があまりにも悪いのではないかというご指摘かと思えます。是非、議論なり、検討を進めていただきたいと思います。

○松田政策企画課長

分かりました。

○渡邊浩文部会長

誤解のないようにということです。ほかいかがでしょうか。

飯島委員。

○飯島淳子委員

今の点でございませけれども、例えば自治基本条例の中には、いわゆる準住民、通勤・通学者を含めるものがあるといったように、住民の範囲を決めるということ自体が地方自治の1つの要素になり得るという考え方もあるので、こういった広い設定も、理論上特に問題はないだろうということだけ、追加で申し上げます。

○渡邊浩文部会長

よろしいですね。ほかいかがでしょうか。

では、榊原委員。

○榊原進委員

今の主語の部分に関連して、仙台市と書いてあると、仙台市を市役所とも読めるし、仙台市域とも読める。例えば総合計画は仙台市役所のまちづくりの指針ですと読めるし、仙台市の範囲（エリア）のまちづくりの指針ですと読めなくもない。かといって先ほど総合計画は行政計画にならざるを得ないという話もあるのですが、一方で「私たち」とはという議論もされていて、まさに主語をどうするのか。同じ仙台市でも両方読めるなどと思って見てしまうのですが、読み方によっては良いように捉えることもできるので、その辺も、ここの委員の中では、それは市役所が主語なのだ、仙台市エリアが主語なのだと分かるように一回は整理しておくと思います。ほかに、施策や事業を誰が担うのかという主語の部分にも関わってくると思いました。

○渡邊浩文部会長

大切なご指摘かと思えます。ありがとうございます。よろしいですか。一応先に進めていきたいと思えます。まずは一通り見ましょう。

次は5ページ目から始まる第Ⅱ章と言いますか、2つ目のパートで「新たな杜の都に向けて」のところ。5ページから10ページまでで構成されているということでございます。

ここの部分はまちづくりの理念、先ほどご説明のあった通り、理念と4つの都市個性の掛け合わせの部分明快にしたというようなところであったかと思えます。さらに5ペー

ジ、特に6ページの概念図、そして7ページ以降の4つの都市個性、目指す都市の姿というところにこれまでの議論も織り込んでいくというのでしょうか。そのようなところが修正点であるというご説明が先ほどあったところです。ここで中身に入る前に、追加の配布資料があるということですので、それをまずは取り上げたいと思います。配布をお願いいたします。

こちらの資料、今、お配りしているので間もなくそれぞれの皆さまのお手元に届くかと思いますが、右肩に小さく書いてあるのですが、竹川委員からこの部分に関連するご提案をいただいたところです。

皆さんお手元に届きましたか。せっかく竹川委員からご提案いただいたところですので、ご説明を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。

#### ○竹川隆司委員

こういうことを民間企業でやると取締役解任動議みたいになるのですが、そうではございません。いくつかご提案をさせていただければと思います。

今回の資料すごくきれいに整理されたと私自身も思っておりまして、前回のもやもやが少しすっきりしたなというのが本音でございます。ただ1点だけ。たぶん1番大切な部分である、企業でいうとミッション、ビジョンの部分について、もう少し我々委員の中でも議論があつて良いのかなというのがまず1点目のご提案。言うからには自分でたたきを持ってこようと思ったものですから、資料にまとめたものを配布いただいた次第です。

実はこの話、3回目の審議会の時に私「杜の都」の話をするときに言ったのですがけれども、議事録を見たらカタカナで「ザ・グリーンネスシティ」となっていたので、正確にはということで英語で書かせていただいています。具体的には「新たな杜の都」というのが分かりにくいのではないかと考えていて、何をもって「新たな杜の都」なのかということ、しかも世界に向けて発信するという言葉がたびたび出てきますので、それがイコール何なのかを我々の方で打ち出せないかなと考えた結果がこれでございます。あくまでたたきとしてご覧いただければと思います。

今ここに書いている「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」に代わるような文言としてイメージしているのですが、「世界に誇れる新しい杜の都 “The Greenest City” Sendaiをつくる」という形はどうかと思っております。ここにも記載していますが「新たな杜の都へ」というのをより具体性と方向性を付与したいと思い、「Greenest」とさせていただいております。ご承知の方も多いと思いますが、1枚めくっていただいて参考2の“Green”にまつわる言葉にいくつかピックアップしていますが、Greenにまつわる言葉はたくさんございます。環境に関する言葉、環境にやさしいエネルギー、ビジネスという意味も含まれます。Greenそのものが緑ということもあります。温かみを示すこともあれば、Green Lightといえば青信号。プロジェクトでいうとGoサインということで挑戦を促進するという意味も含まれていると思います。GreenがGoodsになると新鮮な野菜や果物になるということで食の話も含まれております。

これは後から見たのですが、先ほどの商工会議所の提言「チャレンジシティ仙台」の40

ページの右下に「魅惑的なまちづくり」のいろいろな要素が書いてあります。実はここに書いてある言葉はかなり満たされているなと思っています。「自然を感じる」とか、「まちを感じる」とか「食文化」とか、そういったものがGreenという言葉の中で示し得るのではないかと考えています。そういう言葉を実際に都市の姿として打ち出して、「新しい杜の都」というのは“The Greenest City”なんだと我々のほうで定義して、理念のど真ん中に置くのはどうかというのが私の提案です。英語をあえて使うことで世界に発信するというのも明確にして、「est」という最上級を使うことで方向性も示す。2050年が目指す都市の姿の目標だと思っていますので30年間かけて“The Greenest City”を目指すのはおかしいことではないのではないかと考えています。

参考1「概念図の中のイメージ」で書かせていただきました。先週資料をいただいたときにちょうど6ページ目の木のところにスペースがあるではないかということでコピーペをして白抜きで入れたのですが、都市個性を集中して動員して“The Greenest City”を目指すという方向性が1つと、同時にこれを目指すことで活力も生まれるし産業も集積するし、住みたい人、挑戦したい人も集まるという相乗効果があるのかなということで、逆方向の矢印もつけています。概念図として今のままの形でもじっくりくるといふところも含めて、必ずしもこれだけでなくていろいろなアイデアがあつて良いと思うのですが、私が言いたいことは、この中で、ビジョン、ミッションに当たる「まちづくりの理念」の言葉をもう少し磨けないかなということでした。申し上げたことは、これまで掲げてきた「杜の都」というところとも全然逆行しないと思っていますし、今議論に挙がっている活力・学び・共生・環境というところにも相容れるものだと思います。さらに言うと東日本大震災を経験して、防災を含めて自然とともに生きることの重要性を理解している都市だからこそその言葉として打ち出せるのではないかなと思って、今回あえてたたきとしてご提案させていただきました。

最後に参考3「世界の中の“The Greenest Cities”」を出しましたが、世界の中では“The Greenest City”という言葉は実はもう使われ始めています。ただ、年号も付けましたがここ1~2年で出てきている言葉になりますので、まだこれから我々のほうで定義することも可能かなと思っています。Googleでサーチして出てくるものを上から4つほど紹介させていただいております。ここに書いてあるまちは、私は7割方行ったことがあります、決して仙台の住みやすさ、緑の多さ、あたたかさには負けていないと思っていますので、我々の方でこれを定義してしっかりとここに出てくる都市に負けない都市づくりを30年かけてしていくのだと示すために、是非みんなでご考えていきたいと思ってご提案させていただきました。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。僕も一言二言、言いたいんだけど僕が言うべきじゃないと思いますので。個人的な感想ですけど、例えば挑戦ということ言葉を使っているわりに修正案の6ページの概念図が非常に静的で、動きの方向性だとかベクトルが見えないなと感じています。こういうご提案、参考1の図はじっくりきています。ということもありま

すので竹川委員ご自身がおっしゃった通り、この言葉そのものに限らず、こういったところも議論の俎上に当然のことながら含めていくことも良いことなのではないかと考えたところです。この竹川委員からのご提案、それからそもそも修正案も含めて皆さまからのご意見、ご感想も含めて頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

浜委員、どうぞ。

○浜知美委員

私もミッションとかビジョンがはっきり見えない中でずっと議論をしていたので、今回竹川さんの提言を見てすっと落ちるというか、何か目指すものが1つあって考えていくという方が、議論がどんどん進んでいくのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

舟引委員。

○舟引敏明委員

参りましたというのが、正しいか。前回も申し上げましたけれども、先ほども事務局からもありましたけども、どうも「防災環境都市」という言葉がしっくりこないというのをもう1度申し上げようかと思っていたところです。

どうしてかというと、防災が冒頭にきたからということではなく、この言葉を使うことによって今まで議論していたことからどンドンどンドンずれてきているなという思いがありまして。この資料2-1が分かりやすいのですが、「杜の都の深化」がスタートであって、「都市個性」は「環境」で、「自然と都市機能が調和した都市環境」という理念が、「目指す都市の姿」になると防災環境都市というワードが出てきて、豊かな自然、人の暮らし、次に防災が出てくる。そして「重点プロジェクト」でまた「防災環境プロジェクト」になってきて、本文の25ページを見てみると、最初から防災、防災、防災と、防災の施策が並んでいる。完全にロジックがどこかですり替わってしまっている。たしかこの木の絵のところにもありましたけど、木の絵のところだとやっぱり「美しく快適な自然環境とか生活環境」とか、そこが国際的な危機感も含めて外に向かって一番表現をするべき話。今までももちろん国連防災世界会議も重要ですし、防災をおろそかにして良いということではないのだけど、打ち出し方としていかがなものかと前回申し上げて、また言おうかと思っていたところでしたが。竹川さんのご提案に参りました。海外へ向けてこれだけ良いまち・仙台をどうやって売り出していくか、商工会議所さんの持っている危機感そのものをうまくまとめていただいたなということで、完全に脱帽をしているところでございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

どうぞ、菊地委員。

○菊地崇良委員

杜の都の定義、杜の都のイメージはどうかという話をずっと議論してきた中で、素晴らしいおまとめいただいたと本当に敬意を表するところであります。同時に、緑のイメージも、本文にも参考にも入っているけれども、さらにここに人の心の優しさ、豊かさというものが入ってくるのだらうと思っています。外国人の方々の日本に対するイメージはシティセールスの観点から見ても、日本の歴史と伝統文化だけではなくて、人の心の優しさに触れて帰っていくということをつい最近学術書かレポートかで見たとあります。私たちの仙台の良いところは、純朴で田舎だけでもそこに住まう人々の心の豊かさ、優しさだということをおこのGreenの定義に入れていただくと、より満たされるものがあるかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。非常に好評ですね。今、菊地委員のご指摘で思ったのですが、竹川委員が急ぎまとめてくださった参考2の資料、ここもちょっと大事にGreenという言葉の意味というか、意味する範囲というのでしょうか。対象はそれこそ世界的にどんどん広がっている、深まっている感じは僕もたしかにしておりまして、つい5年ぐらい前までGreen Cityっていう表現をされたような気がするのですが、ここ数年Greenestになってきているのですね。仙台ですと「杜」というべきなのかもしれませんが、その深化、深めるという議論とも重なるような気がしています。ここは事務局に宿題のような感じで出してしまっても良いのか僕も分かりませんが、もっと丁寧に、竹川委員にアドバイスいただきながら、深めても良いのかなという気がしたところです。

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

部会長の話に加えて思い出したのですが、Greenというと障害者とか高齢者の分野のことも一緒に包含するとより仙台の魅力が定められて良いかなと思いましたので、発言させていただきました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。竹川委員のご提案のインパクトが強くて。修正版の中身の議論にも僕としては触れないわけにはいかないのですが。いかがでしょうか。

竹川委員のご提案は恐らく5ページ、特に6ページの辺り。さらに言うと、舟引委員からのご発言は、7ページ、8ページのところにも関わってくるかと思いますが、今一度この7～10ページの4つの都市個性と目指すその方向性、ここの議論も深めたいと思っています。ところですけれどもいかがでしょうか。

舘田部会長代行、どうぞ。

○舘田あゆみ部会長代行

竹川委員のアイデアが素晴らしいので、私も頭がそっちに行っているのですけれども。

恐らくこの7ページ、8ページ、9ページ、10ページも、このGreenを引きずっていかなければならないのではないかという気がしています。その中にGreenのどんな要素が入っているのか。竹川委員のご提案が採用されるという前提になるかもしれませんが、その辺を入れていただいてGreenestとするのが良いのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。まだこの部分のまとめの段階ではないと思うのですが、竹川委員のご提案は、今ご指摘の通り、本部会に留まらない話でございまして、もう1つの「地域とくらし部会」にも関わりますし、審議会の全体会でも議論しなくてはいけないところなのかなと思うところです。少なくとも、今2つの部会が走っているところですので、この部会にご提案くださったということだと思うのですが、もう1つの部会は今日の後ですか。すでに開催済みでしたか。

○松田政策企画課長

明日です。

○渡邊浩文部会長

ちょうどいいですね。是非共有いただいて、どこまでどう議論されるかはあちらの部会にお任せするとして、こちらの部会でこういうご提案があつて非常に盛り上がったということも添えて、少なくともご提案という情報を共有していただくことを事務局にお願いしたいと思います。

館田部会長代行からはそういう文脈で4つの都市個性というものを再定義する必要があるのではないかという、これまた重要なご指摘でございました。

さらにご意見もいただきたいと思うところですが、いかがですか。この後の重点プロジェクトにも関わってくるところなので、ある程度議論なり認識の共有ぐらいのところまではしておきたいと思うところです。

遠藤耕太委員。

○遠藤耕太委員

先ほどの竹川委員の話がとても良すぎて、少々くだらないことになってしまうのですが、5ページの「強みの概要」というところに、「東北唯一の政令指定都市として」と書かれているのですが、私の中で「東北唯一の政令指定都市」というのがすつとこない。

「仙台は偉い」みたいな印象を感じて。東北を牽引するなら「東北の政令指定都市」、「東北唯一」という表現はいらぬのかなと、1人でもやもやしていたところがありましたので、よろしく申し上げます。

○渡邊浩文部会長

この辺いかがですかね。何かありますか。

○松田政策企画課長

東北唯一の政令指定都市はそうなのですが、ここに書かれることによって読む方にまた別の意味合いを与えてしまうというところは、つくっている側の人間ではどうしてもチェックできないところなので、今のご指摘は重要なものと受け止めて表現は工夫したいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。竹川委員のご提案の前に議論を戻して、全市民アンケートで「育つ」ですとか、「仕事」もそうでしたか、非常に厳しい認識を市民の方々はされてらっしゃるということからしますと、8ページの「共生」ですとか、9ページの「学び」もなんでしょうけど、10ページの「活力」も、議論を我々も深めないといけないところなのではないかなと思うところです。

姥浦委員、いかがですか、この辺りは。

○姥浦道生委員

この辺りのまとめ方については、私も先ほどのご意見と全く同じで、竹川委員が出された6つのGreenの意味にさらに何を加えるのかという話はあると思います。これを元にまとめるのが前提になるのかなという気もしてまして。そうするとここで議論することは何だろうと。むしろ重点プロジェクトのところで細かくGreenを通して見たものを、都市個性や目指す都市の姿の方でどう再構成するのかというようにした方が議論はしやすいのかもしれないという印象を受けました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。大変良いご提案いただきました。それに部会長としてもものっかってしまおうかと思っております。皆さん、もう少し進めてからまた戻るといようにしましょうか。

ではいったん、先に進めることにいたしまして、12ページから始まる重点プロジェクトについて、精査したうえで、戻るなら戻るといような議論の進め方にしたいと思います。今回は12ページの中ほどに6つのプロジェクトをまとめてくださっています。全体会までは7つの視点でしたが部会からは6つのプロジェクトになっています。

それから13ページ目以降、説明にありました通り、見開きで1つ1つのプロジェクトを目標、現状、そして右側に実施の方向性というようなフォーマットでまとめつつ、参考資料的なグラフですとか、図表類を載せ込んで再構成されたということでございました。このⅢ章について議論いただきたいということではあるのですがけれども、一応この6つのプロジェクトのうち、我々の部会の主要なプロジェクト、主要な対象がこの1番の「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」、そして5番の「TOHOKUチャレンジプロジェクト」、そして6番の「せんだい都心再構築プロジェクト」というこの3つのプロジェクトだということでございます。もちろん2、3、4についてもご議論、ご意見等あるかと思っておりますけれども、主には1、5、6を対象に審議、議論していきたいと思っております。

1は「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」ということで13ページ。目標として先ほど来、議題になっております防災環境都市のブランド力向上。ここは言葉を変えた方がよいのではないかという雰囲気強く漂っているように思いますが、こういったところです。さらに右側にも防災環境、防災環境、防災環境、防災環境という4つの掛け算の一行が並んでいるというところも、今となって見ると非常に気になるところです。皆さんご意見どうぞ。

舟引委員。

○舟引敏明委員

同じことの繰り返しですが、この13ページ、14ページが一番よく分かります。左側の13ページに書いてあることが、実現するための右ページのプロジェクトになってくるとロジックがずれてしまいます。そこの1点に尽きる。この住み良いまちであり続けるにはというところのプロジェクト、だいたい「実施の方向性」は、優先順位の高い順番に普通書いたりしますので、これはたぶん防災環境という言葉を使ったから、こういうロジックにならざるを得なかったということだと思いますので、これからきっと考えていただけたらと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。皆さんご意見をご開陳いただければと思います。

遠藤耕太委員。

○遠藤耕太委員

確認したかったのですが、プロジェクトの1から6までの順番というのは何か関係性、優位性みたいなのがあったのでしょうか。

○松田政策企画課長

前回も6つのプロジェクトの順番を、挑戦というのが前面に出るのであれば、その順番に変えた方がよいのではないかというご意見も、たしかこの部会でいただいていたかと思えます。そちらについてはいずれ個々のプロジェクトをどんどん議論していった結果を見まして、またどういう順に並べると1番ストーリーが見えてくるのかというところで、最後に整理をさせていただきたいと思っておりました。今は特に具体的な順番で優先順位があるというわけではありません。優先順位というよりは、都市個性に関係するものとして都市個性の順番ごとに並んでいるという形になっています。

○飯島淳子委員

もう少し具体的に議論することを前提としてご説明を頂戴したいと存じます。この審議会で掛け算ということがずっと言われてきて、プロジェクトは恐らく都市個性の掛け算ということだと思うのですが、何を掛け合わせているのか、掛け算ならではの効果は何か、またその掛け算をどのように担保するのかということも背景にはあるのだらうと思

います。施策がさまざま網羅的に書かれていますが、それを見ても掛け算はなかなか読み取ることができません。すべてではなくて結構ですので、典型的な例でお教えいただきたいと思います。これを見ますと非常に網羅的なので、いわゆる総花とか縦割りといったような批判を受けかねないところもあるかと思いました。よろしく願いいたします。

○渡邊浩文部会長

いかがですか。

○松田政策企画課長

掛け算というのは仙台市の持つ強みを掛け合わせてというところの大所かと思えます。それですとなかなか具体的な施策が出て来づらいというところもあろうかと思ひまして、少し目線を落として、都市個性だけではない、いわゆる要素をそれぞれ掛け合わせた形で今書いていますけれども、委員のご指摘の通り本来なら掛け合わせで、これとこれが掛け合わせることでこういう強みは相乗でできるのだというようなところが、より見える資料であればよろしいのですが、現時点ではそこまでのつくり込みはできていないというところでして、いずれご議論してこちらの方が充実してまいりましたら、これは何の都市個性を掛け合わせたものなんだろうかというところは、事務局の中でもチェックをしてみたいと考えておりました。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。ほかいかがでしょうか。

竹川委員。

○竹川隆司委員

「Greenest」になった時にここが1番わくわくするプロジェクトであるべきだなという前提で、何が震災後の仙台という都市の中で世界に発信できるものになり得るのかと考えた時に、ただの防災インフラとか、教育と言ったことだけではなくて、震災がありました、防災のためのインフラが整いました、プラス緑化も含めた自然環境の整備が進みました、それによってその自然災害に強いまちができました、防災教育も充実して、それが文化になりましたという一連のエコシステム、「Greenest ecosystem」というか、そういうものがもしできた時に、世界に初めて発信できるのではないかと思っています。これこそが掛け算なのかなと。世界に発信というところを大きく打ち出している以上は、そういうエコシステムをつくるのだというところまで、施策の中で踏み込んでいただくとよろしいのではないかなとこれを見て感じたところです。

○渡邊浩文部会長

ハードルの高いご意見が出たように私は感じましたが、是非そうすべきかなと思うところです。飯島委員のご指摘と同じで、要するに細切れになってしまっている。掛け算と言いながらもその計算式がばらばらに散在しているというご指摘なのかなと思ったところ

です。

#### ○榊原進委員

竹川委員の今の話を伺って、各プロジェクトの順番を含めて、仮に6つのプロジェクトがあつて、これが一連のエコシステムになっていくということが重点プロジェクトですという、すごくしっくりくるので、ストーリー性をどういうふうにしたせるかということ議論できていくと良いのかなと思いました。

プロジェクト1つ1つで1つのエコシステムということもあるのかもしれないが、全体として何を指すのが重要だと思います。The Greenest Cityを目指すということであれば、そこに向けてどう実現していくかということがここに書かれていくと、すごく分かりやすいストーリー、構成になるなと思って伺っていました。

また1番の「防災環境プロジェクト」自体も、防災環境自体が「防災」と「環境」を掛け合わせているので、掛け合わせにさらに掛け合わせにしているから、違和感があります。もしかしたら防災×人でもいいし、環境×人でもいいし、すべて防災環境×人と言わなくてもいい。すごく強引な感じがしてしまっていて、防災環境都市というもののブランド力を高めるという趣旨はよく分かるんですが、その辺もう少し、これもたぶん「実施の方向性」ということを見ていると、防災環境ではなくて防災×人だったり、環境×人だったり、防災と環境を個別に扱うだけでも良いのかなと思いました。

#### ○渡邊浩文部会長

事務局、どうぞ。

#### ○梅内まちづくり政策局次長

ありがとうございます。今、お話もありましたけど、The Greenest City、もう1つの部会で議論させていただいてということが前提であります。両部会のご理解がいただければではありますが、全体のミッションをつくらうということで、竹川委員からご提案がありました。今も榊原委員からもお話がありましたけれども、12ページのところに、重点プロジェクトの意味が書いてあるのですが、そのところで6つの重点プロジェクトが作用し合ってグリーンエコシステムを構築するような取り上げ方はあるのかなと思って、お話を伺っておりました。

また、先ほどの飯島委員のお話の部分ですが、例えば「都心再構築プロジェクト」。実際にもうすでに走り始めているものがあつて、それに総合計画の中で足していこうということなのですが、都心という場所をもう1度つくり変えていくということを考えますと、さまざまなプロジェクトが関わってこない、ハードだけでも駄目だしソフトだけでも全く足りません。ハード・ソフトの事業が発動される舞台を横断的に見るものとして、6つを提案したつもりでございます。ただ、舟引委員から先ほどありましたが、「防災環境」自体が、復興計画の時に使った用語でもありますので、少し防災面が強くて出ています。震災復興計画は、渡邊部会長と一緒につくらせていただいたのですが、あの時も最初 Resilience City (レジリエンス・シティ) というような話をしたんです

が、英語にしますと、舟引委員からご指摘ありましたようにDisaster Resiliency（ディザスター・レジリエンシー）というふうに、Disaster（ディザスター）を先に出しているところがある。

11月30日にかさ上げ道路、東部復興道路が完成をいたしまして、そういう意味では津波防災という意味でのハードの整備が終わってまいりましたので、次の10年を考える総合計画の中でDisaster ResiliencyからResilience Cityなり、Greenest Cityなりを目指すというようなことも、今後のまちづくりということでは非常に重要だと思って今までお話を伺っておりました。

そういう意味では、防災環境の用語法自体はご指摘のある通りですが、復興をやってきた中で、今回の台風を見ても、公共として非常に重要な取り組みだという、安全安心を守るとというのが基本の部分があります。ただ、それをどう表現していくかというのは、また別問題かと思いますので、先ほど来のご指摘などを踏まえながら、用語法とか、竹川委員のご提案自体は構成に関わる部分がございますので、そういったところについても次に間に合うかということもありますが、頑張っただけでまいりたいと思っております。

#### ○渡邊浩文部会長

僕も、たしか部会は3回の予定だったなと思い資料を見ていたのですが、3回でまとまるかなと心配になってきました。いずれにせよ活発にご議論いただいたので大変結構なことだと思っております。まだ30分も時間がありますので、引き続きお願いします。

今日ご発言がない方が、西澤委員と渡辺委員だけになりました。ご意見、ご感想、何でも結構ですのでおっしゃっていただければと思います。

#### ○西澤啓文委員

同じ市議会である菊地委員が最初におっしゃったように思っています。加えて素晴らしいご提案をいただいて、そうだよなとなってしまうので、後は肉付けの問題であって、皆さんの中でさらにそれが進んでいって良い形ができてくるのだろうなと思ってしまったものですから、発言を控えてしまいました。思いはそういう思いでございます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。渡辺委員いかがですか。

#### ○渡辺敬信委員

特に「せんだい都心再構築プロジェクト」はもう走り出しているわけであって、そのところを、仙台のまちとしての回遊性、交流人口の拡大といったところについて仙台市としての強みを持って取り組んでいかなければならないと考えております。もちろんインバウンドもそうですがアウトバウンド施策についてもしっかりと取り組んでいかなければいけないことだと考えております。先ほど竹川委員からありました通り、Greenestの考え方も非常に重要な視点だと感じました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。23 ページから始まる都心の話にもちょっと議論が出てまいりましたけれども、今野委員せっかくですのでご意見賜ればと思います。

○今野薫委員

それと別で良いですか。

○渡邊浩文部会長

もちろん別で構いません。

○今野薫委員

私最初 Greenest と聞きました時に造語かなと一瞬思ってしまったのです。とても良い中身だと思いますので、それを表記としてお使いになる時に、どう読み手に伝えるかというところは、大きな課題になるかなと思って拝聴していました。

全体を見ますと、例えば都心再構築にしても、都心×イノベーションとか、必ず枕詞が全部一緒なのですよね。ですからそのところを、特には 14 ページのところ。榊原委員がおっしゃったように、防災と環境は分けたほうがすっきりするのではないかなと思ったのですが、全体がやはり枕詞×何かという形にしていますので、ここは少し苦労しそうだという印象を持ちました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

館田部会長代行、どうぞ。

○館田あゆみ部会長代行

各プロジェクトの左側の現状のところグラフが掲載されているのですが、流れる的にここに書いてあるグラフを見てから右を見た時につながりがあるものと、これの解決はどれだったのかつながりがいまいちな感じのものがあります。つながって考えられる方が良いのかなと思います。訴えたいものをここに掲載されていると思うのですが、その流れももう 1 回確認していただくと良いのかなと思います。

先ほどの「チャレンジシティ仙台」は課題だけを強く出していましたけど、インパクト的にはそっちの方があるかなと。現状ということで少し進んでいますとか良いことも書いてありますけれども。良いことは書いた方がよいような気もするけれども、インパクトからすると、課題だけ書いても良いのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

浜委員、どうぞ。

○浜知美委員

先ほど少し合わないっておっしゃられていたのですが、私も 13 ページと 14 ページ。例えば、この世界に発信という現状が今こうなっているみたいなのが、世界を目指す割にはなかったりする。防災フォーラムでどのぐらい住民が参加して、どのぐらい外国からその防災フォーラムに参加したのか。防災フォーラム、国際フォーラムの参加者が少なかったと現場から聞いているので、その辺を解決しないと世界に結局発信できてないということになるので、その辺の現状とかも入れていただくと議論しやすいかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。  
飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

竹川委員の貴重なご提案に対して、あえてもう少し議論させていただきたいと思います。課題が山積する危機的な時代の中で Greenest を掲げることは、これからの仙台の 10 年間、あるいは 2050 年を踏まえたうえでのこの 10 年間に、非常に明確な優先順位付けをするということだと思います。Greenest City にコンセンサスが得られているのかどうか。計画であるからには施策、事業を踏まえてそこを目指していかなければならないと思うのですけれども、そこは大丈夫なのかという点について懸念がございまして、お教えいただきたいと思います。

○竹川隆司委員

コンセンサスはまだ全然得られていないと思います。たぶん 1 番分かりやすいのは民間企業の例ですと、社長が「これやります」と言っていただくとコンセンサスが得やすいかと思います。それを、今回の場合は例えば市長にどうですかと提案するのがこの審議会の役割だと思った時、Greenest というのは 1 つ打ち出し得る言葉なのではないかなということです。おっしゃる通り、もしこれをカンパニー的に合意したものとして打ち出すためには、Green として何を指すのかというところを、KPI としてもっと明確にしていく必要はあると当然思っております。例えば、資料の中で出させていただいた Greenest というのも、今いろんな視点でランキングになっています。ですから出てくる都市名が変わってきています。

例えば 1 番は完全にツーリズムをベースにした Greenest。2 番目はもっと面白くて MIT の研究で、グーグルマップを人工知能で解析して、緑の比率を完璧に出してランク付けしているのです。公園は外しています。何故ならそれは人工的につくられているものだから。都市計画の中できちんと緑が入っていますかという表現の仕方をしていて、このランキングの仕組みはオープンソースで出ているので、誰でも仙台の数値が何かと明確にできます。4 番目のブルームバーグのものは完全にエネルギーの Green で分析しています。恐らく Greenest と言ったときに、3 つか 4 つ、緑、グリーンエネルギー、グリーンビジネスの GDP みたいな。そういう KPI というのはいずれにせよ設定しなけ

ればいけないと思うのですが、まずはその前段階のものとして、目指すべき方向性と姿というところをこの言葉に込めて、今後の議論にコンセンサスのところはお任せしたいなと思っています。

○渡邊浩文部会長

よろしいでしょうか。明日も、もう一方の部会でどのようなご議論になるかも分からないところですので、今日のところは、せっかく竹川委員のご提案をきっかけにこれだけ議論が深まったというところをまず良しとするかと思っていますところ。

舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

都心再構築の話です。都市再生緊急整備地域を拡大して活用しようというプロジェクトは大いに賛成です。ただ1点申し上げますと、ほかの大都市で都市再生緊急整備地域を使って容積率をいろいろ緩和して高いビルを作っているのですが、容積率の緩和というのは、行政が持っている1番貨幣価値の高い武器なのです。その武器を使って容積率を緩和する代わりにオフィス空間の高度化だとか、地べたの足まわりを良くするということなんです。仙台では過去にどうも容積率の緩和で、まともによくいつている雰囲気のところになさすぎる。東京都だと千代田区、中央区、容積率を餌にかなりいろいろなことをしてもらっていて。企業側もその足まわりにいろんな空間を生んで、そこに人が集まることによって結果的に床の価値が上がるという上手なやり方をしているので、今回こういう取り組みが出た時に、やっぱりこのチャンスをまた無駄に、単に床を増やして終わりという世界にしないようなこと。これはたぶん総合計画の中に書く話ではないのかもしれませんが、そういうのが次の下に出てくるプロジェクトなり、施策で乗ってくるようなつながり方をしてくれないとこの再構築の意味がないのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。個人的には6の都心再構築のページは、冒頭に今野薫委員からご紹介いただいたこちらの報告書のでき映えが素晴らしすぎて、中身の話だけでなく見かけもそうなのですが、かえってこちらがちょっとかすんで見えるというのが正直な感覚なのですけれども。

今日はGreen、Greenestというキーワードで議論が始まっておりますけれど、これまで頂戴したさまざまな提言、商工会議所もそうですし、以前、若者たちのグループからも、あそこはかなり突っ込んだようなご提案もあったので、基本計画というよりはこの後の実施計画に含まれ得るような内容も多かったようにも思います。このプロジェクトの位置付けとか、表現、この辺ちょっともう1回、議論なり工夫していかないといけないのではないかなと今日改めて思ったところです。

榊原委員。

○榊原進委員

前回、1回崩してみましようと言ったのですが、例えば16ページ。02 地域×交通で、公共交通のあり方。モビリティ・マネジメントについて書かれていて、03で地域×未来技術のほうでも似たような交通の話をしています。利用者側からいくのか、技術側からいくのかの視点で意味合いが違う。また「チャレンジシティ仙台」の36ページ、観光の中にもMa a Sを取り入れてみてはどうかというところで商工会議所のご提言もあります。当然技術も含めて人々の生活も含めて、さらに観光で来る方たちにとっても移動しやすいというものを考えるだけでも、もしかしたら1つのプロジェクトになり得る、グリーンビークルというところにもなり得るのではないかと思うのです。そのプロジェクトのつくり方、掛け合わせというのを、どう掛け合わせるかはたぶんいろいろあります。何となくでき上がっているのですが、生活者目線側からの掛け合わせとか、技術をどんどん取り入れ新しいものをつくっていくぞというものの掛け合わせとか、いくつかブレストしても良いかなと思っています

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。発言しにくいのですが、まさにそういうタイミングなのかなという気もしております。何か喋れば喋るほど、我々自分の首を絞めるような感じもするのですけれども。やっぱり何か、今回全体として非常にシンプルに分かりやすくなったとは思いますが、分かりやすくなったがゆえに、本当にその議論しなければいけないポイントが逆にあぶり出されてきたという表現もできるのかもしれない。今、僕が感じているのは、もう1つの部会の部会長と議論、審議会の会長もそうですけども、ご相談というか、まず議論しないとイケないのかなということです。議論が足りないし、ここから議論がさらに深まりそうな感じなのに、今の時点で少し踏み込みにくいところもあつたりですとかしているのだ。

僕もうまく言えないのですけれども、もっと丁寧な議論をするためのキーワードという観点でも結構です。榊原委員がブレインストーミングのブレストと発言されましたが、何かこういう視点が足りないのではないかなとか、こういうキーワードがとか、細切れでもいいので、何かこの言葉をということもあれば、おっしゃっていただきたい。是非ご意見、本当に忌憚なくお寄せいただければと思います。いかがでしょうか。

僕は分野的には都市の環境ということを専門にしていますので、例えば、今朝の河北新報に出ていた、ガス局の民営化といった話は、悪く言えば肥大化した行政組織をスリム化するみたいな見方をされるのかもしれませんが、やはり民間のさまざまなノウハウですとか、そういったところから新たなインフラ整備という視点で見ることできるわけです。こうした話の中に、また決まった話ではないのはもちろんなのですが、何かもっともっと盛り込まなければいけないキーワードがあるような気もするのです。議論を最初に戻すつもりはないのですけれども。

どんどんおっしゃっていただいたほうが良いかなと思うところです。部会長が先走りすぎだということであれば、ブレーキをかけていただきたい。

#### ○菊地崇良委員

事業計画につなげるので、1つ足りないなと思っているのは、人の心の部分が欠落している。都市計画や都市の各種施策につなげるのは分かるのだけでも、住んでいる人の心がいかにあるべきか。いかなる心であれば良いのかというようなものが入って初めて杜の都、Greenの、生きた仙台につながっていくのではないかなと思うのです。

時間が無いので発言するのをためらったのですが、ざっくりと言うならば、そういうことです。

○渡邊浩文部会長

時間はまだあるのでどうぞ。

○菊地崇良委員

例えば13～14ページに防災環境都市の話があります。住み良いまちであるためには、どちらかというインフラの話とか人材育成とか、事業の話が落とし込まれてくるのです。でも私たちが震災を通じて学んだのは、お互いに思いやる心、姿だったはずなのです。それが無いのですね。あまり血の通いがあまり感じられない。緑って地面から栄養を吸って上に葉っぱをつけて花を咲かせる命の営みがあるのですね。その部分が欠けていると言えるのかな。具体的にどうすれば良いのかは言えないのですが。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○館田あゆみ部会長代行

うまくは言えないのですが、前回まではこの6つのプロジェクトは個別のプロジェクトに見えていて、それぞれに縦割りというか、あまりつながりなく目指している姿があるような気がしていたのですが、Greenestが出てきた瞬間に全部が目指すものがもう1つのこの何だかよく分からないけど、Greenest Cityっていうものに向かうのだなというイメージは自分の中でできました。このGreenest、みんな今日初めて目にしましたので、Greenest City Sendaiってどんなまちなのだろうということを単語レベルで考えていくと、それぞれのプロジェクトにマッチしたこと、菊地委員の言う人の心とか命を育みたいなものとかも、そのGreenから出てくるような気がしています。各委員の宿題にしても良いのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。竹川委員のご提案を踏まえて、ご用意いただいた資料参考2のページ、事務局に、僕宿題として投げかけましたけども、事務局に投げかけている場合ではない。我々自身がGreenを、まずはキーワードに考えてみようということですね。こういうのも事務局にどんどん言ってくださいという話でよろしいですかね。我々がそれぞれ考えるGreen、Greenに繋がる部分ですけど。僕がまとめる感じですか。事務局でいいですか。

○松田政策企画課長

はい。

○渡邊浩文部会長

確認できましたので、皆さんせつかくの機会ですので是非考えてみましょう。

ということで、今日こんなところでしょうか。明日もう一方の部会が開催ということなので、こちらはGreenestですごい議論が広がり、盛り上がり、深まったかと思いますが、あちらの感触はどうでしょうか。竹川委員はもう1つの部会の委員ではないのですよね。事務局からうまく伝えていただいて。あまり盛り上がらないということであれば、そこはうまく交通整理をして、全体会でもう一度議論をするというようなことかと思えます。当部会はGreenestでずいぶん盛り上がっていろいろと良かったなと思っていますが、全体としてというところも大事にしていきたいと思えます。

あと10分ということになってまいりました。いかがでしょうか。今日は主にこのⅢ章の6つのプロジェクトというところを、議論の中心にしました。Greenestというキーワードで、ここも再構成、掛け算の議論もありましたけれども、1回考えるべきではないかというようなご意見が今日はあったと、無理やりまとめればそんな感じかなと思えます。

繰り返しになりますけども、明日開催されるもう1つの部会での議論によっては、もっと丁寧に組み立てるというところが必要かなと思ったところです。今日のご意見等々も踏まえて、修正版をさらに修正していくということになるのでしょうかけれども、その際、言われたから直すというような箇所でないところは、両部会長、会長とで先行して議論するかもしれませんというところをご理解ください。收拾を付けないといけません。

○西澤啓文委員

3回目の前に議論は必要だと思います。

○渡邊浩文部会長

そうですね。そういう方向で考えております。

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

終わりが見えたので少し。今日言い忘れたことをまとめて。1ページの「これまでの経過」の「質的な心の豊かさ」。これを本文の中には是非とも入れていただきたいと思っています。「質的な心の豊かさ」というせつかくのキーワードがあるのだから、これを先ほど申し上げたような、各分野のところに入れていただきたいなど。

それから5ページの最後、下から2行目、「失敗にも学びながら」と、役所としてすごい、チャレンジャーだと思ったのです。ここの「失敗に学びながら」は失敗を前提としているわけではないんでしょうけど、ここの書き方が必要かどうかはもう1回見たほうがい

い。「教訓に学びながら」、あるいは「繰り返し挑戦を続ける」とか、前向きな感じでも良いのかなと。役所の皆さんの姿勢は十分に感じましたので、ここには書かなくても良いかなと。

14 ページ、③の環境防災×グリーンインフラ。グリーンインフラとはなんぞや。竹川委員の話に関連するのですけど。この部分に、前回は申し上げたのですけど、農業のイメージがなかなか想起しにくい。農林水産省では農業の多面的機能とあって、文化や伝統、そして保水力や防災力、また、心の豊かさというものについて、事業計画としていろいろやってきています。そういったものに目を通していただいて、ここも想起できるような書き方にしてもらったほうが良いかなと。公園の魅力向上などと言ってしまうと、公園だけなのか。違いますよね。森林、山から川を通じて、田園があつて海に行く。そこにつなげるイメージを文中に表していくべきではないのかなと思っています。

それから 24 ページ、「せんだい都心再構築プロジェクト」の中です。回遊という言葉があります。たしかにその都心部の回遊は取り組むのですけども、これは東北の中心とするだけではなくて、仙台市、都市計画区域のみならず、仙台市全域の回遊の拠点なのですよね。その部分がざっくりと、あまりにも区分けされている感じがします。仙台市全域あるいは東北の回遊の拠点であるという意思を表すべきではないかと思えます。

#### ○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。5 分前になってまいりましても、良い議論ができたかなと思っております。一応この資料編は、今日は議論する必要はないと思っておりますけど、25 ページ以降も、IV 章そして最終の 35 ページの V 章で区別計画、VI 章で章節、項立てを修正したというような説明も冒頭ありました。何かここでご意見等々あれば。今後この具体的に上げていくことになるだろう箇所だとは思いますが、今日の時点で事前にこの資料を配られたということもありますので、ご用意された方いらっしゃったら是非この 5 分でご発言いただきたいと思えます。いかがでしょうか。

榊原委員、どうぞ。

#### ○榊原進委員

区別計画をつくられているという話だったのですが、区別計画はこの審議会では特に諮られるものではないのか、区でつくるというものなのか、その辺を教えてください。

#### ○松田政策企画課長

区別計画も基本計画の一部でございますのでこちらの審議会でご議論をいただく対象にはなっております。ただご議論をいただくにしてもたたき台と言いますか、そういったものがないとご議論がなかなか効率的にできないと思えましたので、今たたき台を区でつくらせていただいているという状況でございます。

#### ○榊原進委員

その時、重点プロジェクトと区別計画との整合性とか、どう関わってくるというのも、

区でつくるということでしょうか。そこにプロジェクトが紐づいているものなのかとか、その辺もすごく重要ななと思っていましたので、ここで議論するものと思って確認させていただきました。

○渡邊浩文部会長

姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

最終的にこちらで良いと思うのですが、区でおつくりになるときに、会議体とか住民参加なのか、もうちょっとオープンなのか分からないのですが、そういうのは何かあるんでしょうか。

○松田政策企画課長

区ではこういった会議体、民間の方を入れた会議体ではなくて、純粹に区の職員が中心になってつくっております。当然ながら区民参画イベントのような形で市民の方にもご意見を聞きながらやっております。区は通常業務の中でも現実に市民の方とたくさん接するというので、日常的に区民の方々のご意見を聞いている。特に町内会とか関係団体とほぼ日常的に密に連絡、調整をしたりとか課題の認識をしたりとか、未来の展望を描いたりとか、やりとりしているところではありますので、そういったことの日々得ているご意見をいただきながら今検討している状況でございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。よろしければ時間でもありますので今日の部会の審議終了としたいと思います。よろしいでしょうか。

後、明日開催される部会のご議論の内容をできれば我々も知りたいですよね。それなりにまとまりましたらなるべく早めに情報をいただければ。こちらの情報もいつているかと思えますけれども、是非お願いいたします。

○松田政策企画課長

議事概要を取りまとめましたら、詳細の議事録の前になるべく早めに送付させていただきたいと思えます。

○渡邊浩文部会長

よろしいでしょうか。それでは本日の議事、以上で終了といたします。

### 3 閉会

○渡邊浩文部会長

最後に事務局から何か連絡等々ありますでしょうか。

○松田政策企画課長

1点ご連絡がございました。次回の審議会の日程でございます。お手元の座席表の裏面に、今後の日程について記載しておりますのでご覧いただきたいと思います。次回第3回の部会は、来年の2月3日月曜日の18時から開催したいと考えております。場所はここではなく、以前グループワークを行った会議場、市役所南側の市民広場の近くにありますが仙台パークビルの2階の「TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール2」にて行わせていただきたいと思います。お間違いのないようお願いしたいと思います。

○渡邊浩文部会長

それでは以上をもちまして審議会を終了といたします。皆さんどうもありがとうございました。